



ランプでの祈り 明治40年頃 (提供:内田寿夫氏)

隠岐伝道と愛の橋

司祭 バルナバ 瀬山 会 治

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2015年
6月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

り」と題する男女6人がコタツの上に置かれたランプの周りに座り、熱心に聖書を読んでいる1枚の写真があり、そこには次のような説明が記されてあります。「ほの暗いランプの光の中で、この敬虔な集まり。信ずる人びとの静かで落ちついた祈りを感じる。」

これは隠岐の島での聖公会宣教の初期の写真で、佐藤金物店の二階座敷で行われた礼拝の様子です。隠岐の島で最初に聖公会の礼拝を始めたのが、主人の佐藤源之助兄でした。この方の甥で金物店を継いだ藤原金市兄は、そのキリスト教信仰も共に継承されました。そのエピソードが小中学校道徳指導郷土資料「隠岐の人々」の中に「愛の橋」として記され、子どもたちに読まれています。

隠岐の島、西郷町西町で大火事が起こりましたが、そこに消

火に駆けつけるためには、八尾橋か天神橋のどちらかを通って行く道しがなく、2本の橋が遠くに離れてあるために多くの人が焼け出された出来事があり、町の人びとは不便を感じていました。そこで信仰者であった藤原金市兄は、街の人びとのために商店街の店主や町議員さんなど橋の建設のために資金を出してくれそうな人たちに頼んで回りましたが、全員に断られてしまいました。そのうちに町の人々から「自分の店にお客を呼び込むために橋を架けようとしている自分勝手なヤツだ」と悪口を言われるようになりました。そんな昭和2年のある日、連日降り続いた雨で洪水になりはしないかと心配していた金市兄は、手にしていた傘も役に立たず、全身ずぶぬれになりながら、遠くの天神橋まで一生懸命に歩いていく一人の小さな女の子と出会った。ここに橋の建設をしなければならぬと言った強い思いを抱くようになりました。当時、8人の子どもを持つ金市夫妻にとつて自費で橋を架けることは想像を超える苦労の連続でした。工事の請負業者との交渉、

木材や石垣用の石の手配、町役場や隠岐支庁への工事許可願など多くのことに追われる日々で自分の商売のことなど考える余裕がありません。特に彼を悩ませたのは、橋を架ける位置です。自分の家に近い場所に橋をかけて欲しいと言う人や橋の建設に反対する人もいましたが、根強く話し合い、結局、橋は天神橋と八尾橋の中間に架けることとなりました。やがて工事は開始され、丸1年をかけた1929年(昭和4年)9月25日、橋は完成されました。総工費2670円的全額を藤原金市兄が私財を投げ出してまかないました。そして、この橋の名前を聖書の言葉「汝の隣人を愛せよ」から「愛の橋」と名付け、完成後は町に無償で寄付しました。

現在、隠岐の島には聖公会の集会が行われていますが、神の働きは一人の信仰者を通して今日も隠岐の島の人々の生活の中に生きており、島出身の多くの信仰者も各地で活躍されています。

(米子聖ニコラス教会牧師、
鳥取聖ルカ教会・境復活教会・
広瀬基督教会管理牧師)

新司祭・新執事から

司祭に按手されて

司祭 ミカエル 杉野 達也



重さなのだろうか。あるいはこれから担っていく司祭という仕事の責任の重さなのかもしれない。」と感じたからです。

翌日の日曜日は、松江基督教会で聖餐式の初司式を行いました。入堂する前から退堂するまですつと緊張していました。礼拝後に信徒の皆さんに「先生、緊張されていましたね。緊張感が伝わってきました。」と言われました。司祭としての務めである聖餐式の大切さ、それを司式する重みを翌日に感じました。

主のお許しにより、3月21日、春分の日に公会の司祭に按手されました。ウイリアムス神学館に入学して以来、ちょうど5年あまり、たくさん励ましとお祈りに支えられて、司祭按手の恵みに与ることができました。いつも私を気遣い、心に留めてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

司祭の務めについては、聖職按手式の式文の諸問の箇所にかかれております。それを要約いたしますと、「言葉と行いによって福音を宣言し、その教えに従って生活すること、すべての人を分け隔てなく愛すること、説教をすること、神の赦しを告げること、神の祝福を与えること、洗礼を行うこと、聖餐式を司式すること」です。ここに書かれていること一つ一つがとも責任のある重たい務めです。このような重たい責務をこれから行っていくのだが、私には耐えられるだろうか。不安になる時もあります。そんな時は按手式のことを思い出そうと思います。皆様にお祈りしていただき励まされたこと、私に働きか

けてくださる聖霊が与えられたこと、そして何より神様が共にいてくださることを。

弱い私を召し、いつも共にいてくださる神様とこれからも共に過ごし、共に働くことに喜びをもって日々を歩んでいきたいと思えます。どうぞ、これからもよろしくお願い致します。

時かれた種、実る時

執事 セバスチャン 浪花 朋久



事として務められることが、何よりの喜びです。また、週に一度の神戸国際大学附属高校での勤務では、クラウジー・シャツ(カラー・シャツ)を着て行くことで、教職員の方々や生徒たちから、私が執事になった、という変化に驚きとお祝いの言葉をいただきました。それがきっかけとなり「牧師とはどういう仕事なのか」「教会はどのようなことしているのか」という話をする機会が増えたことは、何よりの喜びです。

執事に按手されることが決まった時、私は、自分がクリスチャンになった「スタート地点」を探するために、過去を振り返っていました。クリスチャン・ホームで育っていない私が、洗礼を受けたのが、大学生の頃。教会に通い始めたのは、高校生の頃。しかし、もっと前に私は、神様と出会っていたのです。それが何と、幼稚園の時。私が通っていた幼稚園は、神戸市垂水区にあるカトリック教会の愛徳カリメロ修道女会を母体とする愛徳幼稚園でした。幼い頃の記憶は、ほとんどありませんが、クラス担任の先生がカトリックの信徒で、私たち園児を前に十字架を手にして「イエス様は、私たちのために十字架にかかったの。」

と教えてくださったことを急に思い出したのです。「人生で初めて、イエス様のことを教えてくれた先生に、私が執事に按手されるところを見てもらいたい。」その思いから、実に24年ぶりに、先生へ連絡を取りました。連絡すると、先生は、とても喜んでくださいました。そして、按手式にも来ていただき、私たちは、24年ぶりに再会を果たすことが出来たのです。このことから、私の執事按手は、イエス様の名によって、時かれた種が24年の時を経て実った瞬間でもあったのです。

私は、これから執事として「言葉と行いによって、キリストとその贖いの愛を明らかにしなければなりません(祈禱書474頁)」。私自身は、とても弱く、言動にも多々、問題があります。しかし、神様は、この様な私を執事として召してくださいました。そして、私が幼い時に、神様の召しが与えられていたように、神様のみ業が、私たちの周りに多くあるのだ、という、この神秘を一人でも多くの人に伝えて行けるよう、これからも努めてまいります。

どうぞ、これからも、皆様からのご指導ご鞭撻、お祈りのほど、よろしくお願い致します。

ヨハネ桑原 一郎 司祭 逝去



去る4月18日午前1時、桑原一郎司祭は入院先のアガベ甲山病院で逝去されました。19日午後7時から通夜の祈り、20日午前11時から葬送式が準教区葬として中村豊主教の司式、教区の教役者補式により神戸聖ミカエル大聖堂で執り行われました。延べ300名以上の聖職・信徒等が参列しました。

葬送式では、岡崎正司祭が説教で「桑原司祭は、クリスチャン・ファミリーの長男として、期待され、実直で真面目な聖職者として牧会生活を送っていた。」と語られました。

桑原司祭は、鳴門聖パウロ教会、神戸聖ヨハネ教会、広島復活教会、神戸昇天教会など、44年の牧会生活を送られました。退職後、聖職が不足する教区の

要望から、松江基督教会

でご奉仕されました。しかし、数年後、体調が優れず、教会勤務を断念せざるを得ない状態にまでに悪化しました。診察の結果、水頭症を罹患していることが判りました。

その後、平日は神戸聖ミカエル教会で行われる聖書研究とデイサービスで楽しい時間を過ごしました。しかし、昨年9月に体調を崩し入院されました。

昨年末、筆者は上原信幸司祭と共にクリスマスの私宅聖餐へ伺いました。その時、倫子夫人から「クリスマスだけれど、主人の好きな『主、われを愛す』を一緒に歌いませんか。」と言われたので、病室にいる全員で歌いました。すると、桑原司祭は聖歌に合わせて口を動かされました。体は動かなくとも、主を賛美する桑原司祭の信仰は、岡崎司祭が語ってくださった「実直」だったのだと思います。桑原一郎司祭の魂が主の御憐れみによって安らかに憩われま

すよう、お祈り申し上げます。
(浪花 記)

第52回中高中生大会に向けて

テレサ 笹 緋奈

「中高中生大会がなくなってしまうのは嫌ですか？」この問いが投げかけられたのは3月24日から行われた、春の準備会でのことでした。今、私たちは「中

高生大会がなくなってしまうかもしれない」という危機に直面しています。このことを危機と感じるか否かは様々な捉え方があると思います。しかし、私たち役員は口を揃えて「嫌です」と答えました。それはなぜでしょう。答えは1つです。みんな中高中生大会が大好きだからです。同世代の若者が集まり、共に祈りし、聖歌を歌い、同じ時間を共有することができる素晴らしいキャンプを私たちの代でなくしてしまうわけにはいかないのです。

この危機から脱出しようとする中、中高中生大会を引っ張ってくれる大会長は藤井漱之介君(神戸聖ヨハネ教会)です。彼は「参加者全員が楽しめる大会にしたい。そのためには、まず役員自ら全力で楽しみ、誰でも輪の中に入りやすい雰囲気を作らなければならぬ」と言いました。大会長の思いを聞き、みんな

今年の中高中生大会のテーマについて考えました。そして、近年中高中生の参加者が減少している中で、どうすれば新しい中高中生のメンバーが増えるのか、どうすればまた次も参加したいと思ってもらえるのかについても話し合いました。

そんな中、チャブレンである長田司祭に「みんなが指示を待っている、黙り込んでしまっている。それをなくしてほしい」と言われました。私は確かにその通りだと思いました。今回の話し合いでも呼びかけがあっても誰も答えず、みんな黙りこんでしまう場面が何度かありました。しかしこのままではいけないと気付きました。個々が役員としての自覚を持って自分の言いたいことをちゃんと言葉にして、良い話し合いをしなければならぬのです。

今年のテーマは「宝探し」です。このテーマには中高中生大会の宝物(友達、思い出、自分なりに中高中生大会で得るものなど)を探してほしいという思いが込められています。今年の中高中生大会は岡山県の前島というところで行われます。キャンプファイヤー・ウォークラリー・海水浴・スタンツ・肝試しなど盛りだくさんの楽しいプログラムを予定

しています。参加者全員に充実した4日間を過ごしていただけるよう、夏に向けて役員一丸となって準備していきます。ぜひこの前島という宝島と一緒に宝探しをしましょう。たくさんの方の参加を心からお待ちしています。
(神戸聖ミカエル教会信徒)

神戸教区第52回中高中生大会

テマ：宝探し
日時：8月11日(火)～14日(金)
会場：啓明学院 前島キャンプ
大会長：藤井漱之介(神戸聖ヨハネ教会)
参加費：12,000円(傷害保険含む)
申込先：司祭 藤井尚人(神戸聖ヨハネ教会)
*所定用紙に記入し、各教会から一括申し込めください。
申込締切：7月14日(火) ※締切厳守

キャンプサーバー・トレーニング・キャンプ

目的：中高中生大会CSのための研修
参加対象：18歳以上の青年
日時：2015年8月10日(月)～11日(火)
会場：岡山聖オーガスチン教会
参加費：無料(交通費も一部負担します)
申込先：司祭 杉野達也(松江基督教会)
*中高中生大会とは別に申し込んでください。
申込締切：7月14日(火) ※締切厳守

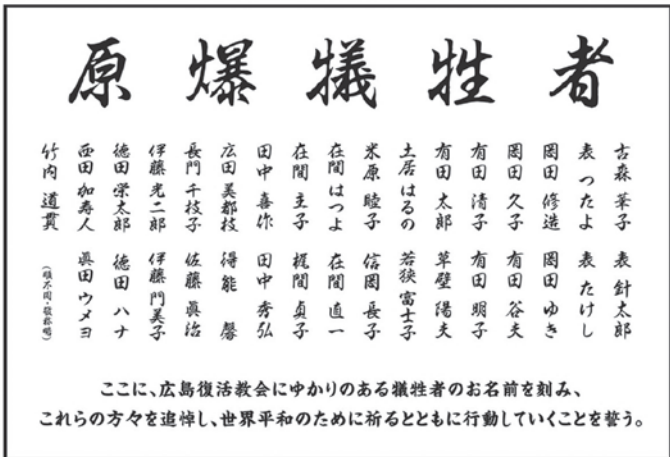
広島平和礼拝2015

司祭

オースチン 小林 尚明

広島復活教会では、三年前から「原爆犠牲者名表検討委員会」を発足させ、今年の広島被爆七十年に向けて、何か形のあるものを作ろう、という計画を進めてきました。そして広島復活教会にゆかりのある方々のお名前を刻んだ「名表」を作った。どうか、ということを信じて、徒の皆さんに提案したところ、「よい考えだ。賛成」という方と、「今さら七十年も経ってから必要なのか」「関係者の遺族として名前を出して欲しくない」という反対意見もありました。

しかし、原爆で奪われた一人一人の方々の人生を今だからこそ、思い出し、名前を刻み、将来へ向けての広島復活教会としての平和実現への決意を表す物を作る、ということによって賛成を頂きました。



来へ向けての広島復活教会としての平和実現への決意を表す物を作る、ということによって賛成を頂きました。

昨年の広島平和礼拝2014から「名表(プレート)」について募金を始めました。昨年参加した多くの生徒、学生たちも協力してくれました。今年の平和礼拝には完成したものをご覧になれると思います。楽しみにしてお越し下さい。なお募金は現在も行っています。少額でもかまいません。皆さんの募金を頂き、皆さんの思いを形にしたいと思います。ご協力下さい。

(広島平和礼拝実行委員)

振替口座 ゆうちよ銀行
振替口座名義 日本聖公会 広島復活教会
口座番号 01360231693

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

4月5日(日)
アシジのフランシス

マールゲット 林 恭平
ラファエラ 大東 香帆
ソフィア 三木 薫
ソフィア 大東 香織
ル カ内尾 徹
エルサレムのシリル 富高 八洲
ヤコブ 太原 晃一
マリア 坂牛 紬
ヨハネ 宮城 正太郎
フランチェスカ 米子聖ニコラス教会
片岡 則子 高知聖パウロ教会

祝 堅 信

4月12日(日)
マリア 益田 夏花
明石聖マリア・マグダレン教会
パウロ 本間 淳
高知聖パウロ教会

ご 逝 去

4月4日(土)
マリア 岡澤 ミヨ
4月13日(月)
テモテ 貫 志朗
富岡キリスト教会
広島復活教会

教 籍 移 動

4月17日(金) アブラハム 田中 昭郎 富岡キリスト教会
4月20日(月) パウロ 堀田 寛太郎 神戸聖ミカエル教会
4月23日(木) マリア 山本 敏子 広島復活教会
4月25日(土) マリア 中道 緑 神戸聖ミカエル教会
3月31日(火) アウグステイヌス 田北 圭吾 神戸昇天教会より 延岡聖ステパノ教会へ
4月2日(木) マグダラのマリア 岩永 友妃子 西大和聖ペテロ教会より 神戸聖ミカエル教会へ

7月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2015年7月2日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 與賀田光嗣

* 7月の記念逝去教役者 *

1日	司 祭	ロバート	コールマン
3日	伝道師		小川 淳一
5日	司 祭	レジナルド	セイバリー
6日	宣教師	フレデリック	ウォーカー
11日	伝道師	マリア	横田 キヨ
12日	修 女	ユニケ	岡上 千代
14日	司 祭	パウロ	中村 弘
15日	宣教師	オクタビア	ジュリアス
15日	司 祭	ウィリアム	リチャーズ
19日	司 祭	マッテヤ	末永 恵
20日	司 祭		広瀬 健介
21日	宣教師	ドロシー	ケ ー ス
27日	宣教師	ルイーザ	ガル ゲ ー
28日	主 教	マルコ	小池 俊男

お詫びと訂正

『神のおとずれ5月号』
「鳩だより・教籍移動」に掲載した安信恵美さんのお名前が、阿信恵美となっていました。お詫びし訂正いたします。